
輸送の安全に関する情報の公表について

～運輸安全マネジメントに関する取り組み～

2020年9月

北海道中央バス株式会社

目 次

1. 輸送の安全に関する基本的な方針	1
2. 輸送の安全に関する目標及び達成状況	2
3. 自動車事故報告規則第 2 条に規定する事故に関する統計	3
4. 安全管理規程	3
5. 輸送の安全のために講じた措置及び講じようとする措置	
(1) 2019 年度に輸送の安全のために講じた主な措置（実施）	3-4
(2) 2020 年度に輸送の安全のために講じる措置（計画）	5-6
6. 輸送の安全に関する情報伝達体制その他組織体制	6
7. 輸送の安全に関する教育・研修等の実施状況	6
8. 輸送の安全に関する内部監査の結果及びその措置	6
9. 行政処分について	7
10. 一般貸切旅客自動車運送事業における公表事項について	7
11. 安全統括管理者	7

1. 輸送の安全に関する基本的な方針

当社では、輸送の安全に関する基本的方針として、「安全方針」を定め、「人命尊重・安全最優先」の理念のもと、経営トップから社員一人ひとりに至るまで一丸となって安全管理体制の構築、輸送の安全性の向上に取り組んでいます。

- (1) 社長は、輸送の安全の確保が社会的使命であり、経営と密接不可分であることを認識し、社内において輸送の安全の確保に主導的な役割を果たします。また、現場の安全に関する状況の把握の重要性を深く認識し、社員に対し輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底させ、輸送の安全の確保に全力を尽くします。
- (2) 輸送の安全に関する計画の策定（Plan）、実行（Do）、チェック(Check)、改善(Act)のPDCAサイクルを確実に実施し、安全対策を絶えず見直すことにより、輸送の安全性の向上に努めます。また、安全性に関する情報については、積極的に公表いたします。

【安全方針】 北海道中央バス株式会社

人命尊重・安全最優先

“より安全・安心なバスを目指して”

1. 私たちは、「輸送の安全の確保が事業経営の根幹であり、社会的使命である」ことを認識し、向上心を持ってPDCAサイクルを活用して、輸送の安全性の向上を図ります。
2. 私たちは、関係法令・規則を遵守します。
3. 私たちは、人命を尊重し、人身事故の絶滅を図るため、次の2項目を最重点の取り組みとして、安全運転に努めます。
 - 車外人身事故を無くすため、右左折時は一旦停止による安全確認を徹底します。
 - 車内人身事故(戸挟み事故含む)を減らすため、お客様への声かけ等を徹底します。

平成30年6月28日

代表取締役社長 **二階堂 恭仁**

2. 輸送の安全に関する目標及び達成状況

(1) 2019年度の目標及び達成状況

2019年度

輸送の安全に関する目標

1. 交通事故死者数ゼロ
2. 事故件数 過去3年平均の10%減少
3. 踏切事故ゼロを継続
4. 飲酒運転ゼロ
5. 危険ドラッグ等 薬物乱用の絶無

最重点取組み実施2項目

- 交差点右左折時の車外人身事故を無くす
- 車内人身事故(戸挟み事故含む)を減らす

● 達成状況

「2. 事故件数 過去3年平均の10%減少」については、有責人身事故件数及び有責事故件数が、目標を達成することができませんでした。
その他の項目は達成しました。

(2) 2020年度(令和2年度)の目標は以下のとおりです。

令和2年度

輸送の安全に関する目標

1. 交通事故死者数ゼロ
2. 事故件数 過去3年平均の10%減少
3. 踏切事故ゼロを継続
4. 飲酒運転ゼロ
5. 危険ドラッグ等 薬物乱用の絶無

最重点取組み実施2項目

- 交差点右左折時の車外人身事故を無くす
- 車内人身事故(戸挟み事故含む)を減らす

3. 自動車事故報告規則第2条に規定する事故に関する統計

2019年度における報告事故件数は123件でした。内容は以下のとおりです。

種類	件数	規則第2条中
被衝突事故	1件	第3号
車内人身事故	19件	第7号
健康起因による運行中止	4件	第9号
車両故障(路上故障)	99件	第11号
合計	123件	

(参考) 道路運送法第29条に基づき国土交通大臣に届け出る事故(抜粋)

自動車事故報告規則(第2条)
第3号 死者又は重傷者を生じたもの
第7号 操縦装置又は乗降口の扉の開閉する操作装置の不適切な操作により、旅客に傷害を生じたもの
第9号 運転者の疾病により、事業用自動車の運転を継続できなくなったもの
第11号 自動車の装置の故障により、自動車が運行できなくなったもの

4. 安全管理規程

別紙 「輸送安全管理規程」 参照

5. 輸送の安全のために講じた措置及び講じようとする措置

(1) 2019年度に輸送の安全のために講じた主な措置(実施)

① 乗務員安全教育の実施、35年勤続乗務員研修の新設

運転技能や接客サービスの向上を目的とした安全教育を実施しています。当社グループ会社の中央バス自動車学校での研修も活用し、新規採用時から勤続年数別に継続して実施、長年にわたり乗務員の安全運転やサービスの習熟度向上を図っています。また、責任事故発生者に対する教習も実施しており、昨年度は合わせて480名の教習を実施しました。

また35年勤続乗務員教習を新設。年齢による運転の反応能力の限界を体感し、危険予測の重要性を再認識することを目的とした内容を取り入れました。



中央バス自動車学校コース内で実施する勤続年数別乗務員教習

② デジタルタコグラフ代替による安全・経済運転の一層の推進

全車両を対象に、2019年12月から新型デジタルタコグラフ機器への代替更新を進めています。ドライブレコーダー搭載型として、映像も活用しながら引き続き「速度超過・エンジン回転・急加速・急減速・アイドリング」に関する指導を通じ安全・経済運転の意識向上を図っています。

③ 車内人身事故の防止対策

例年実施する「高齢者疑似体験」訓練に加え、バス利用者に対し、バス車内での放送やステッカー、また液晶運賃表示器「OBCビジョン」でも、走行中の車内移動による転倒事故防止のための注意呼びかけを行っております。



運賃表示器（OBCビジョン）による注意喚起



高齢者疑似体験訓練

④ 交差点右左折時の車外人身事故防止対策

交差点右左折時における歩行者等への安全確認を確実に実施し事故を防止するため、横断歩道手前等での一旦停止（または最徐行）に取り組んでいます。バス後部にステッカーを掲出し、取り組みをお知らせしています。



右左折時一旦停止ステッカー

⑤ 研修、会議等の実施・参加

輸送の安全に関する安全意識の向上や事故防止を図るため、職種を問わず社内での会議体や研修の開催及び社外研修・セミナーへの参加に取り組んでいます。

（社内会議・研修）

輸送安全管理委員会、所長研修、運行管理者研修、小グループ活動 等
（社外研修・セミナー）

NASVA 安全マネジメントセミナー、安全輸送実務者会議（バス協会主催）

⑥ 「乗務員コンテスト」の実施について

乗務員の士気向上と、運転操作・接客・車両点検の実施状況を確認し、今後の改善につなげ、輸送の安全確保、顧客満足度（CS）の向上を目的とした乗務員コンテストを実施しております。2018年からはグループバス会社も参加し、選抜された乗務員が集い、日頃培った技能を披露し、安全・安心の意識を高める機会としております。



乗務員コンテスト（車両点検の審査）

⑦ 健康起因事故を防止するための健康管理対策について

高速道路を運行する乗務員については、一般道よりも事故の被害が大きくなる可能性が高いことから、乗務員選任基準を定めるとともに、SAS(睡眠時無呼吸症候群)の検査・治療を実施しております。

また国のガイドラインを踏まえ、2019年6月から脳健診も順次実施。脳血管疾患の早期発見及び発症の予防に取り組み、社員の健康管理及び輸送の安全を図っております。

(2) 2020年度に輸送の安全のために講じる措置（計画）

別紙5「2020年度 輸送の安全に関する計画」に基づく取り組みを実施するとともに、以下の取り組みを実施いたします。

① 最重点取り組み実施2項目の徹底

- 車外人身事故を無くすため、右左折時は一旦停止による安全確認を徹底します。
- 車内人身事故（戸挟み事故含む）を減らすため、お客様への声かけ等を徹底します。

最重点取り組み実施2項目については、その実施する目的を認識させ、安全を確保する取り組みを継続して実施します。

② 厳正点呼の実施

点呼時における乗務員の健康状態の把握、酒気確認の確実な実施、注意・指導事項の伝達など、点呼は安全運転するために重要な場面であることを運行管理者及び乗務員の双方が認識し、厳正な点呼を実施します。厳正点呼強化期間を設定し本社担当部門による巡回を実施します。

③ PDCA サイクルの取り組み強化

- ・事故事例の共有、またヒヤリハット情報の収集と共有の方法・手順を構築し、営業所での小集団活動、指導教育に活用します。
- ・安全に関する社内アンケート調査により、社員の会社の安全方針に対する理解度や法令順守の意識を把握し、安全管理体制の改善を図ります。
- ・適性診断結果に基づく個別指導を実施し、個人の運転特性やくせを自覚させ、安全運転を励行する意識向上につなげます。

④ リスク管理に関する教育・訓練等の実施

運行管理者を対象にリスク管理に関する教育を実施します。

6. 輸送の安全に関する情報伝達体制その他の組織体制

輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統については、輸送安全管理規程第 8 条第 4 項に、また事故・災害が発生した場合における報告連絡体制については、同規程第 13 条第 1 項に定め、それぞれ別紙のとおり定めています。

別紙 「輸送安全管理体制組織図」参照

別紙 「緊急時の連絡体制」参照

7. 輸送の安全に関する教育・研修等の実施状況

輸送の安全を確保し、安全目標を果たすための教育・研修等について、年間計画を策定し、別紙のとおり実施しています。

別紙 「2019 年度 輸送の安全に関する取り組み」参照

別紙 「2020 年度 輸送の安全に関する計画」参照

8. 輸送の安全に関する内部監査の結果及びその措置

安全方針に基づき、安全管理体制が効果的に実施・維持され機能しているか、また、安全管理に関する関係法令や社内規程などのルールが遵守徹底されているかについて確認するため、輸送の安全に関する内部監査を実施しました。

○実施期間 : 2020 年 1 月～2 月

○被監査部署 : 本社各部門、バス事業部、全営業所

-
-
- 主な改善事項 : ヒヤリハット情報の有効な収集方法と活用方法を構築する必要がある。
- 改善措置 : 上記内容について改善に取り組みます。

9. 行政処分について

弊社は、北海道運輸局により以下の処分を受けました。当件を厳粛に受け止め、法令を遵守するとともに、再度基本に立ち返り輸送の安全確保を徹底し再発防止に取り組みます。

- (1) 処分を受けた日 2018年7月24日
- ・対象営業所 新川営業所
 - ・処分の内容 事業用自動車の使用停止 10日車
 - ・違反事項 自動車事故報告規則に規定する事故（車輪脱落事故）の届出をしていなかったこと。
 - ・改善措置 職場内での情報共有を徹底し、自動車事故が発生した場合は、速やかに届け出る。
- (2) 処分を受けた日 2020年9月14日
- ・対象営業所 大曲営業所
 - ・処分の内容 事業用自動車の使用停止 40日車
 - ・違反事項 深夜業を含む業務に従事する乗務員複数名に対する健康診断が6ヶ月以内ごとに1回の実施に至らず、年1回の実施になっていたこと。
 - ・改善措置 健康管理の重要性について社員に対し指導を実施するとともに、健康診断の実施状況の管理を徹底する。

10. 一般貸切旅客自動車運送事業における公表事項について

一般貸切旅客自動車運送事業者が公表すべき輸送の安全にかかる事項のうち、国が公表することされている情報については、下記 URL から国が公表する安全情報をご覧ください。

○国土交通省ホームページ「貸切バス事業者の安全情報」

<https://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/bus/index.html>

11. 安全統括管理者

執行役員 バス事業部長 中川原 清行 (2019年11月15日選任)